

令和7年度

第2回神奈川県公立高等学校設置者会議

会 議 録

- 1 日 時 令和7年9月5日（金）
15時30分～15時45分

- 2 場 所 神奈川県庁本庁舎大会議場

- 3 出席委員 黒岩 祐治、工藤 誠一、田沼 光明、柏木 照正
竹内 博之、木村 昌彦、新倉 聡
川名 勝義、花田 忠雄、篠田 寛、市川 幸春
丹羽 正昇（横浜市教育委員会事務局学校教育部長）
北川 友明（川崎市教育委員会事務局学校教育部長）

事務局（私学振興課長）

それでは定刻となりましたので、ただいまより、令和7年度第2回神奈川県公立高等学校設置者会議を開催させていただきます。

事務局の神奈川県私学振興課長、田中と申します。

本日はご多用の中、お集まりいただきありがとうございます。会議に入ります前に、今年度、委員の交代がありましたので、事務局より、新委員3名を御紹介させていただきます。

委員構成につきましては、会議資料の「資料1」を御参照ください。

川崎市教育委員会教育長 落合 隆 委員です。本日は北川友明学校教育部長に代理出席をいただいています。

次に、神奈川県教育委員会教育局長 篠田 寛 委員です。

続いて、神奈川県教育委員会教育局指導部長 市川 幸春 委員です。

また、他に代理出席いただいている方もおりますので、御紹介します。

横浜市教育委員会教育長 下田 康晴 委員の代理として、丹羽 正昇 学校教育部長にご出席いただいております。

なお、飯島 奈津子 委員は本日所用のため御欠席となっております。

また、本会議の主宰者の黒岩知事ですが、所用により途中からの出席とさせていただきますので、御了承願います。

取材及び傍聴人についてですが、この会議は原則公開としており、既に報道関係者席及び傍聴席に御案内していますので、併せて御承知おきください。

なお、報道関係者から写真撮影の希望がございましたので、知事の出席後、写真撮影を行う場面もございますが、こちらにつきましても、御承知おきください。

また、本日の会議資料とは別に「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」から、本会議の主宰者である知事あてに要請文書が提出されました。机上に文書の写しをお配りしていますので、御確認ください。

それでは、開会にあたり、座長の選出をお願いしたいと思います。

本会議の座長につきましては、発足当初から、神奈川県において私立学校を所管する福祉子どもみらい局長が座長を務めさせていただいていることを踏まえ、慣例に倣い、福祉子どもみらい局長である川名局長をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

全員

（異議なし）

事務局（私学振興課長）

それでは、座長には川名局長を選出することとし、進行をお願いしたいと思います。

ます。川名局長よろしく申し上げます。

福祉子どもみらい局長（座長）

本日は足元の悪い中、お越しいただきましてありがとうございます。座長を務めさせていただきます、神奈川県福祉子どもみらい局長の川名でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、これから議事に入りますが、先ほどの事務局の案内のとおり、知事は途中からの出席となりますので、次第の順番を入れ替えて、まず、「2 報告事項」に入らせていただいて、その次に「1 議題」の順に進めさせていただきますと思います。

なお、終了時刻は、15時50分頃を予定しています。

それでは、「2 報告事項」の「公私協調事業『神奈川の高校展 2025』」について、事務局から説明をお願いします。

事務局（私学振興課長）

<資料4により説明>

座長

この「神奈川の高校展」ですが、平成18年度から始まりまして、今年で20年の節目の年を迎え、中学生の高校選びのための事業として、定着しているところでございます。これもひとえに、学校関係者の皆様の御協力と御尽力によるものです。本当にありがとうございます。

今回の「神奈川の高校展 2025」の開催に当たり、それぞれの学校現場等で、留意した点や、工夫した点等につきまして、ぜひ皆様方から御発言をお願いしたいと考えております。恐縮ですが、私の方から順番に御指名させていただきます。まず、神奈川県教育委員会からよろしく願いいたします。

市川委員

ただいま説明のあった通り、「公私合同説明・相談会」、そして「全公立展」、いずれも無事に終了しているところでございます。

特に、「全公立展」は、県立高校、市立高校が一堂に会し、4万人以上の方に御来場いただきました。当日は、高校に在籍する生徒が多く参加して、各高校のブースでは、それぞれが創意工夫を図り、各校の魅力や特色をアピールする場になるとともに、来場者の皆様から大変な好評をいただき、イベントのニーズの高さを感じたところです。

また、「公私合同説明・相談会」は、どの会場も多くの方に御来場いただいて

おります。

熱中症対策として、予定時刻よりも前倒しで開始する、待機列を室内にするなど、各会場の運営にあたって工夫をしていただいたこともあり、混乱や大きな事故はなく、無事に終えることができました。

今後も様々な知恵を出し合いながら、公立、私立が協調して事業の充実を図って参りたいと考えております。私からは以上です。

座長

県教育委員会から、「全公立展」については、4万人以上の参加があったということ、またそれぞれの会場において、暑さ対策に工夫をされたという御報告をいただきました。

続きまして、私学の委員の皆様からお願いいたします。

工藤委員

私学は7月21日に「神奈川私学（高校）展」をパシフィコ横浜で開催しました。

それぞれの学校がブースを出展し、各校の紹介をするとともに、学費支援に関する相談コーナーを設けたところ、かなり多くの方が御相談に来てくださり、学費支援に対する関心の高さを改めて感じたところであります。

来場者数が39,993人ということで、私どもとしては、大変多くの方に来ていただいたと思っております。また、猛暑の中での開催となりましたので、その対策については大変心配しておりましたが、無事に終えることができました。

「公私合同説明・相談会」に関しましては、各地区において、公立と私立が共に説明・相談会を行うということで、中学校3年生やその保護者の方々が、その地域にある学校の特徴がよく理解できたのではないかと思っております。

中学校3年生の進路選びが適切にできるように、このような催しを行っていくことは、大変重要であるということを、開催20回目にして、改めて感じた次第であります。

私からは以上です。

座長

私学側から御報告をいただきました。今回、多数の方に御来場いただきました、この「私学（高校）展」には、私も出席させていただきましたが、各校のブースで、また、学費支援に関する相談コーナーで熱心に話を聞く姿を拝見して、来場者の皆様の関心の高さを感じました。

続きまして、横浜市様、よろしくお願いいたします。

横浜市 丹羽学校教育部長

中学校3年生、そして保護者の皆様方に高校を知っていただく大切な機会として、「全公立展」や、「公私合同説明・相談会」が実施できたことは、大変有意義であると思っております。特に、台風の接近により開催が危ぶまれた、横浜北地区の「公私合同説明・相談会」につきましても、無事に開催できたことに大変安堵しております。

さて、まず、「全公立展」についてですが、各校のブースで、限られたスペースを活用し、学校の特色や魅力を視覚的に伝える効果的なパネルの展示や、モニターやプロジェクターを活用した学校紹介もあり、来場者の皆様には、よりリアルに、学校の雰囲気や、高校生活を感じてもらえたのではないかと思います。

何より印象的だったのは、各校の生徒たちが、教職員と一緒に熱心に、学校の魅力をPRしている姿です。生き生きとしている先輩方の姿を目の当たりにすることで、中学校3年生の皆さんは、高校生活への期待と希望を膨らませることができたのではないかと推察しております。

次に、「公私合同説明・相談会」についてですが、「全公立展」で使用したパネルや掲示物に加え、教職員によるスライドを用いた詳細な学校の説明や、学校行事などの動画上映が行われていました。また、各学校で個別相談ブースも設けられており、来場者が気になる点を直接学校と相談することで、各学校の魅力や特色についての理解が深まり、進路選択に当たり、大変有意義な時間になったと感じております。

以上でございます。

座長

横浜市様から御報告をいただきました。各高校の生徒の皆さんが、熱心に学校のPRをしていたということですが、これは私も実際に目の当たりにして、本当に皆さん、学校を愛しているのだなということを感じさせていただきました。

続きまして、川崎市様、よろしく申し上げます。

川崎市 北川学校教育部長

「全公立展」については、私も今回、初めて参加いたしました。横浜市さんのお話にもありましたが、先生方が協力・サポートしつつも、各校の生徒が主体的に自分たちの高校の魅力を一生懸命アピールしている姿が、私個人としても、非常に印象的だったというふうに思っております。

来場者の皆様の方の関心の高さから、このイベントのニーズの高さについても、実感したところでございます。

また、「公私合同説明・相談会」についてですが、川崎地区では4,620人にご来場いただいたと聞いております。地元での開催ということで、説明する側、参加される方、ともに真剣にお話をされている姿が印象に残っており、高校選びのための、本当に良い機会になっていると感じました。

今後、公私が協調し、さらなる事業の充実につなげていけたらと思っています。以上でございます。

座長

川崎市様から御報告をいただきました。来場者の方々がそれぞれのブースで、学校選択のために熱心に質問をされている姿を私も拝見しましたので、この「神奈川の高校展」のニーズの高さ、本当に貴重なイベントであるということは、私も同感でございます。

続きまして、横須賀市様、お願いいたします。

新倉委員

新型コロナウイルス感染症の関係で、数年、中止されていた期間がございましたが、昨年度に引き続いて、今年度も「全公立展」を開催できましたことを嬉しく思っております。

特に「全公立展」は、1つの会場で、県内すべての公立高校の特色等が紹介できるという意味で、大変有意義な機会だと捉えているところです。

また、「公私合同説明・相談会」につきまして、横須賀三浦地区は、市立横須賀総合高等学校を会場に、8月6日に実施いたしました。

今年も本当に暑い中での開催となりましたので、熱中症対策として、昨年度好評であった、入場待ちの方の待機場所を校舎内に設ける取組みを継続したことに加えまして、今年度は入場時間を10分早めたり、学校内の食堂を利用できるようにしたりなど、来場された皆様が涼しい場所で過ごせるような工夫をいたしました。

また、参加された高等学校は、パネルの展示に加え、プレゼンテーションや動画をを用いて、それぞれ短時間で自校の特色を説明されており、各学校の工夫が感じられたところでした。

教員に加えて、特に在校生が自校の説明を担当したり、中学生の相談に応じたりする場面が見られ、各校がそれぞれの個性を發揮されていると感じたところです。参加された中学生からは、高校生のリアルな声に触れることで、より具体的に高校生活をイメージできたという声も寄せられております。

「全公立展」や、「公私合同説明・相談会」は、各高校の特色を中学生や保護者の皆様に直接感じていただける機会として、非常に有意義なものと思ってお

ります。

横須賀市立の中学校に通う生徒には、自分自身が主体的に自らの希望に沿った進路選択ができるよう日頃から指導しており、その一環として、「全公立展」や、各高等学校の学校説明会の参加を促しているところです。

中学校に確認したところ、生徒が学校の情報を得る際には、各高等学校が作成する広報資料やホームページが重要な情報源となっているとのこと。本市の市立高校である、横須賀総合高校につきましても、ホームページの更新等を行いつつ、最新の情報を発信できるように努めていきたいと思っております。

以上でございます。

座長

横須賀市様から、参加した中学生のリアルな声のご報告をいただきました。確かに今はインターネットで、ホームページ等から情報を得ることが非常に貴重かと思えますし、各学校とも、本当に工夫をして発信をいただいていると思っております。

他に御意見等がある方はいらっしゃいますでしょうか。

では、竹内委員、お願いいたします。

竹内委員

意見というよりも、要望として発言いたします。各市の教育委員会の方から、「全公立展」及び「公私合同説明・相談会」についてのお話がありましたが、市内の中学校に通われている生徒さんのうち、進学先として私立学校を選んでくれる方も多くいらっしゃいますので、「私学（高校）展」の方にもぜひ、足を運んで、その様子を見ていただきたいと思います。

私からの要望は以上でございます。

座長

ありがとうございます。他に御意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。

では、田沼委員、お願いいたします。

田沼委員

「神奈川の高校展」を、公立と私立が協調してやっていくということになった経緯について、御存じの方はどのくらいいらっしゃるのかなと思いましたので、発言させていただきました。

古い話になってしまっていて恐縮ではありますが、かつて、私立中学高等学校協会が、公立高校の入学定員決定の差し止めを求めて教育委員会を提訴するといっ

たことがありました。このとき、松沢前知事が、「公立と私立で争うのではなく、協調を図っていくべき」として、「全公立展」、「私学（高校）展」に加え、「公私合同説明・相談会」が開催されるようになったという経緯があります。

公私協調事業は、長年にわたる公私の営みの結晶のようなものですので、私どもも、公立さんのことを良く知りたいと思っておりますし、公立の皆様におかれましても、是非「私学（高校）展」に来ていただけたらありがたいと思います。

座長が冒頭に、「今年で20年の節目を迎える」とおっしゃっていましたが、20年も経ちますと、現場の先生方にも、そういった過去の経緯を御存じない方が多いのではないかと思います。特に、メインイベントである「公私合同説明・相談会」は、公立の副校長先生が中心になって運営されていると伺っていますので、是非こうした経緯を知っていただくとともに、「私学（高校）展」をお勧めいただけたらと思います。

私からは以上です。

座長

開催の経緯についてお話を伺い、私自身も大変勉強になりました。今のお話を踏まえ、やはり、公立、私立で今後より一層の連携、協力ができればと考えております。

他に御意見はありますか。

では、木村委員お願いいたします。

木村委員

大変素晴らしい取組みで、自分も是非、実際に見てみたかったなと思います。

やはりこれからは、情報をどう発信するか、どう受け取るかということが大事になってきます。誰もがどこでも容易に、噂話なども含め、大量の情報を入手することができるからこそ、実際に見て、聞いて、雰囲気を感じることで、量的な情報を質的に高いインテリジェンスにするという経験は、子どもたちにとってたいへん大事なことです。この取組みは、大変有意義なものであると思います。

以上です。

座長

ありがとうございます。

皆様、それぞれのお立場で御苦勞いただいたことをお伺いしました。今後とも様々な工夫をしながら、中学生が自分の希望に合った学校を見つけられるよう取り組む必要があるということを実感しました。

本日いただいた御意見につきましては、「神奈川の高校展実行委員会」にお伝えしたいと思います。

報告事項については、以上でございます。

続きまして、次第の「1 議題 令和8年度の高等学校生徒入学定員計画の策定について」に移らせていただきます。

初めに、神奈川県公立高等学校協議会における、定員協議の結果について、協議会の座長である私学振興課長より報告をお願いします。

事務局（私学振興課長）

<資料3により説明>

座長

知事が到着しましたので、ここからの参加とさせていただきます。

それでは、これより意見交換に移らせていただきます。

令和8年度の高等学校生徒入学定員計画の策定について、公立高等学校協議会の報告があったところですが、御意見をお願いしたいと思います。

まず、私立学校側の委員から御意見いかがでしょうか。

工藤委員

協議が調ったことを大変嬉しく思います。私学と公立が共にそれぞれの入学定員目標を設定し、合意ができました。比率で目標設定を行う方式から、現在の定員目標数を設定する方式となったのは知事の御提案によるもので、神奈川が先駆けてやっているポジティブな取り組みであると認識しておりますので、これを継続していくことが大切であると思っています。

竹内委員

公立高等学校協議会で定員協議をするに当たっては、今年度の入試結果を振り返り、これを参考に協議をスタートさせたわけですが、私学は今年度の目標14,900人に対して、県内の公立中学校卒業者に限れば127人目標に届かない結果となり、私学としては予想外でした。一方で、県外からの入学者と帰国生を合わせると、15,937人という結果になり、目標を上回ることができました。

この結果から、私学側としては、来年度に向けた協議に自信を持って臨むことができたと感じています。

令和8年度も全日進学率90%を目指すということで、私学側は昨年度目標から50人を増やし、14,950人という目標設定をしましたが、私学の持つ歴史と

伝統から生まれる各学校の特色が県民の皆さんに知っていただけるようになったこと、そして、学費支援が充実してきた面もありますので、来年度の目標である14,950人は達成できると私学側は自信を持っています。

秋からの広報活動では、公私ともに全日制進学率向上を目指し、お互いよりよい高校教育の広報をしていければと思います。

座長

続いて、神奈川県教育委員会からお願いいたします。

花田委員

公私立高等学校協議会の結果報告があり、その中で、公私各々が実現を目指す定員目標を設定する方式が継続されたこと、また、公立中学校卒業予定者数が減少を続ける中で、県全体の全日制進学実績の向上を目指すこと、この点が公私で継続して合意されたことについて、異論ございません。

竹内委員から、自信を持っているという御発言もございましたが、県立高校につきましても、資料3の2ページ目にあるとおり、公立の役割とは何か、改めて記載がございます。生徒一人ひとりの希望と適正に応じて、多様な選択ができるよう、幅広い進路先としての役割を担っていく、これが公立の役割であると認識し、学力向上進学重点校からクリエイティブスクールまで多様な特徴を持たせた学校づくりに努めているところです。公立離れも懸念されている状況ではありますが、引き続き、公立高校をしっかりと運営していきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

座長

それでは、横浜市様、お願いいたします。

横浜市 丹羽学校教育部長

今年度の入学定員計画については、十分な協議がなされた結果であり、妥当なものであると認識しています。

今後、県内の公立中学校卒業生数は減少を続ける見込みで、また、広域通信制高校への進学率も増加しているような状況で、目標設定も難しい面もございますが、これまで通り、公私が協調しながら、それぞれの立場と責任の上において、全日制高校への進学率の更なる向上に向けて一層の努力をしていくことが重要であると考えます。

横浜市立高校についても、各学校の特色を生かした教育を充実させていくように、最大限努力して参りたいと考えています。

座長

続いて、川崎市様、お願いします。

川崎市 北川学校教育部長

川崎市としても、中学生の進路の多様化という課題はございますが、これまでの経緯と協議の結果を踏まえ、全日制進学率を概ね9割に設定するという目標に対して、適正な定員設定がなされていると認識しています。

座長

それでは、横須賀市様、お願いします。

新倉委員

令和7年度の県内全日制高校への進学者数は、令和6年度と比較して減少していると伺っています。今後も少子化の影響によって、県内公立中学校卒業生数の減少は続く見込みとなっており、生徒の進路選択が多様化している状況でもあります。公私がそれぞれ責任を持って十分に協議を重ねた上での定員計画であると捉えていますので、入学定員計画の目標設定は妥当なものであると考えています。

横須賀市では、令和7年度の市内の中学生は約8,300人前後となっていますが、5年後の令和12年度には7,300人前後となり、約1,000人の減少が見込まれています。このような状況の中で、横須賀市立高校でも、生徒募集に当たっては学校の特色をより多くの生徒、保護者の皆様に周知していくことが必要と認識しており、特に生徒一人ひとりの希望に沿った教育がより一層充実するように今後も取り組んでいく所存です。

座長

それでは、学識者の木村委員からもお願いします。

木村委員

令和8年度の定員計画については、公私それぞれが協調しながら、丁寧に協議されたものであると感じています。

特に子どもの学びの保障をどうするかが協議され、過去のデータに基づいた計画であると認識していますので、定員計画の内容は十分なものであると思っています。

学び、これが一番重要だと考えています。子どもの学びをどう保障するか、そこを私たちが考えていかなければいけないと思います。今、多様性が叫ばれてい

ますが、E & I、それからD & I、そしてDE I & B、つまり、子どもの居場所をどう考えるか、それぞれの学校にそれぞれの学びの特徴があって、それにどのように対応するかが子どもたちの今後の成長に関わってくると思います。

公私それぞれが協調して策定したこの入学定員計画は大いに意義があると感じています。

座長

ただいま皆様から様々な御意見をいただきました。

皆様からの御意見も踏まえまして、令和8年度の高等学校生徒入学定員計画の策定につきましては、本会議として協議成立ということによろしいでしょうか。

全員

(異議なし)

座長

それでは、協議成立とさせていただきます。

なお、定員計画のうち、公立高校の定員につきましては、今後、教育委員会に諮って正式に決定することになりますので、御承知おきください。

以上で議事を終了させていただきますが、主宰者である知事から御発言をお願いいたします。

黒岩知事

所用により途中からの出席となりましたけれども、今年度も本会議において、公私の協議が成立したことを大変嬉しく思います。

神奈川県では、公私それぞれの立場を乗り越えて、しっかりと協調しながら連携していく流れが続いており、今回もこの歴史を重ねることができたことについて、ありがたく感じています。

そのような中で、子どもの数がますます減少しています。来年3月の県内公立中学校卒業生は10年前と比較して4,000人も減少する見込みで、少子化がこれから更に進んでいくという、厳しい情勢でありますけれども、皆様が熱心な議論を重ねていただいた定員目標が達成されれば、全日制進学率が90%に達するというので、大変心強く感じます。こういった議論というのは、子どもたち一人ひとりの目線に立って議論することがとても大事ですので、この流れができていることは、素晴らしいことだと思います。

来年度実施に向けて国が検討している、いわゆる高校無償化が実現できれば、

これまでの公私間の議論にどのような影響を及ぼすか、予測ができない部分もありますけれども、今後の動きをしっかりと見極めながら、この公私協調の歴史を紡いでいきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

座長

それでは、以上をもちまして、令和7年度第2回神奈川県公立高等学校設置者会議を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。